

## 令和7年度 岩手県久慈保健所運営協議会議事録

- 開催日時 令和8年2月10日(火)午後6時30分から午後7時54分
- 開催場所 久慈地区合同庁舎6階 大会議室
- 出席者 別添委員名簿のとおり。委員16名のうち出席15名(うち代理出席1名)
- 傍聴者 なし
- 会議内容

### 1 開会(浅沼次長)

会議成立報告：会議開始時、委員16名中14名(うち代理1名)の出席

### 2 挨拶(小守林保健所長)

本日はお忙しい中、また、お寒い中お集まりいただき、ありがとうございます。

また、日頃より、圏域の保健医療福祉行政の推進に格別の御理解と御協力を賜り感謝申し上げます。

さて、昨年12月には青森県東方沖地震が発生し、後発地震注意報が発表されました。八戸市などでは大きな被害が発生しております。2月に入っても、規模は小さくなっておりますが、余震とみられる地震がございます。この地域で大きな被害はございませんでしたが、地域の皆様方は、改めて巨大地震津波などへの備えの重要性を実感されていることと存じます。保健所といたしましても、一層、関係の皆様方との連携を図り、対策を進めて参ります。

また最近、再びインフルエンザの感染が拡大しています。管内でも休業措置を実施した小中学校が、1月下旬から昨日までに10校に及んでおります。引き続き感染対策への御協力をお願い申し上げます。

保健所の業務は、保健、医療、環境・衛生など多岐にわたっておりますが、本日の御審議を踏まえ、その一層の増進に努めて参りたいと考えております。限られた時間ではございますが、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます、ごあいさつとさせていただきます。

本日は、どうぞよろしく申し上げます。

### 3 新任委員紹介(浅沼次長)

新任者3名の紹介

小野寺 勝幸委員(野田村長)(小谷地 鉄也副村長 代理出席)

梨木 和徳委員(久慈歯科医師会長)

十文字 香子委員(久慈市民生児童委員協議会理事)

### 4 議事

#### (1) 会長・副会長の選出について

**【浅沼次長】** 保健所運営協議会条例第4条第1項の規定により、「協議会に委員の互選による会長・副会長各1名を置く」とされております。

本日は委員改選後初めての会議でございますので、会長・副会長を選出していただきますが、選出方法につきまして、出席の委員の皆様から御提案はございますでしょうか。

(提案なし)

御提案がないようですので事務局案をお示ししたいと思いますのですが、よろしいでしょうか。

(意義なしの声)

ありがとうございます。それでは、これまで、久慈市長様に会長、久慈医師会会長様に副会長を務めていただいたところですので、引き続き会長には久慈市長であります遠藤委員、それから副会長には久慈医師会長であります金子委員にそれぞれお願いできればと考えておりますが、いかがでしょうか。

(意義なしの声)

ありがとうございます。御異議がないようでございますので、会長に遠藤委員、副会長に金子委員を選出することにつきまして、拍手をもってご承認願います。

(拍手)

ありがとうございます。

それでは、保健所運営協議会条例第4条第2項の規定により、会議の議長は会長が行うこととなっておりますので、遠藤会長にこれからの進行をお願いいたします。

## (2) 令和7年度岩手県久慈保健所事業の実施状況について

### ① 医療・介護分野

資料1及び参考資料について事務局から説明(久慈保健所 工藤企画管理課長)

《質疑・意見》

**【遠藤議長】** 恐れ入りますが、皆様から御意見をいただきたいと思えます。

医療従事者の確保について、久慈病院でオープンホスピタルと一緒に体験会を開催しているという説明がありましたが、やはり、この管内は医療従事者が少なく、医師、歯科医師、看護師、薬剤師、すべて岩手県平均よりも下回っているというデータが出ていますが、医師会の金子委員、この従事者の養成について御意見をいただけませんか。

**【金子委員】** まず、養成の前に、そこを目指す人が増えないと当然増えませんので、こういう出張の出前講座は、僕らの頃にはなかったことで、良いことだと思います。そこを目指すというモチベーションを、いかに若い人たちに持たせるかだと思います。持てば、じゃあ次にどうしたらそこに辿り着けるかと考えるでしょうから、まずは、そこだと思います。特に、医学部の場合は、それなりにいろいろと努力しないと難しいところがあります。

大都市と違って地方は、残念ながら特に女性の就職環境が厳しいと思っております。実は私の娘は、何か国家免許をとということで看護師です。看護師に関しては、もっともっとやれる子どもがたくさんいると思えます。看護師免許をとれば職はありますし、そういうところを教育現場でも教えていただければと思います。

**【遠藤議長】** 遠野委員、お願いします。

**【遠野委員】** 病院で感じるのは、病院薬剤師さんがすごく少なく、資料には(人口10万対薬剤師数)県が40.5、久慈管内が39.2とありますが、病院の薬剤師は非常に少なく、

薬は非常に種類があり、新しい抗がん剤などもどんどん出てきますので、医師だけではできないのです。この職種の中で、歯科医師はよく分からないのですが、薬剤師さんだけは公的奨学金がほぼないのです。北三陸の道の駅に、民間の薬局が、奨学金を出しますと大きなポスターをいっぱい出していますが、公的奨学金もできれば良いと思います。

**【遠藤議長】** ありがとうございます。久慈市は、看護師の養成の奨学金はありますが、薬剤師はありません。

歯科医師会の梨木委員、いかがでしょうか。

**【梨木委員】** 歯科医師会としては、会員のほとんどが個人の経営者ということになりますので、歯科を目指そうという若者、志は、個人個人の意思に委ねられており、ほぼ、100%に近いのではないのかという感覚です。

ですから、見学などを個人の先生にお願いしてやるには、まず会員の先生の中ですり合わせ、地域の中でどのように歯科医師を増やすのかという意思の統一が必要であり、会として、どういう形に持っていかなければならないか、今直ぐ返答はできません、今後の課題です。

歯科医師も年々減少傾向になっていくと思いますので、そうなると、歯科の医療難民、そういう患者さんも将来的には増えていくのではないかという気もします。会員の入会も少なく、年配の先生で退会されるとか、辞めていかれる方は、年々、増加傾向になっていくのではないかと思いますので、久慈地域の歯科診療所を確保するためには、何かの手だて、まず、若者に歯科医師になりたいという希望を持ってもらえるよう、個人病院でこれを全部やることは難しいと思うので、時期的には会として考えていかなければならないのではないのかという気がします。

**【遠藤議長】** ありがとうございます。

薬剤師会の新潟委員、いかがでしょうか。病院薬剤師が足りないという話もありましたが。

**【新潟委員】** 私が一番感じますのは、昔、我々の世代、薬剤師は大そう余っているようなイメージがありました。それが激変したのは、6年制への移行と、国家試験が難しくなった辺りからで、急に薬剤師が足りないという話が出てきて、それでも、それなりにいるのかなと思っていたんですが、先ほど、遠野先生から病院でも薬剤師が足りないとお話をいただいて、私自身ほとんど把握してなかったのが、愕然としております。

具体的に大した策はないのですが、今更4年制に戻してくれと言っても難しいでしょうから、大学の入試を少し簡単にして門戸を広げ中で絞る、国家試験で最終選抜して優秀な人をとるように、志し易い環境を作ってあげるようなことも将来的にはと思っていますが、少し気の長い話です。手っ取り早いのは、実際に職に就いていない方に積極的に声をかける、病院で勤務される可能性のある人を探すということにも目を向けたらどうなのかとは思っておりますが、決定的な打開策は現在のところありません。

**【遠藤議長】** ありがとうございます。

洋野町さんは奨学金を受けた医師が結構戻ってきていると聞くんですが、状況はいか

がでしょうか。

**【岡本委員】** 現在居る医師の中では、奨学金を受けた医師もいらっしゃいますが、やはり、大きな病院に行きたい、医師だけではなく薬剤師もそのようですが、全額返還しても違う方に行きたいという方もいるようです。ですので 100%地元に戻ってきてるわけではないというのが現状です。

**【遠藤議長】** 奨学金を受けて医師になっているのは、地元の方ですね。結構いらっしゃると思うのですが。

**【岡本委員】** はい、おります。

**【遠藤議長】** そもそも志望しないと、その次に繋がらない、始まらないというお話がありますが、その辺り、保健所として何か取組、今やっていると思うんですけども、歯科医師も、これから足りなくなってくるという話もありますので、いかがでしょうか。

**【小守林保健所長】** 医師不足が叫ばれて、各医学部の定員が増えて、新設医学部も2つできましたけれども、日本の人口が減っている中で医師の養成数は増えているわけで、人口当たりの医師数が増えているはずですが、問題は、これが適正配分されていないということがまず1つです。

厚生労働省ではなく財務省の資料、ホームページを見ますと、フランスとかドイツの例を出して医者を準公務員化すべきだとか、かなり過激な意見が最近出てきており、開業規制とか、そういう話も出ております

あと、将来予測としては、また、今後医学部を廃止したりとか、定員を減らしたりする方向に行くのではないかなという予測が出ておりますから、冒頭で金子委員が仰ったとおり、まずは、未来ある若者にきっかけを与えてあげることが、まず第1だと思っておりますので、保健所としては引き続き今年の事業を継続していきたいのですが、ただ、きっかけを持ってもらっても、今、話しましたとおり、門戸が狭くなっていくことは多分間違いないことで、岩手県の学生には、首都圏の学生を上回るくらい一生懸命、勉強してもらって受験戦争に勝ち抜いてもらわないと医学部にも入れないという時代にまた突入していきます。実際、入れなくなってきているようですので、岩手県の教育水準をさらに上げていかなければならず、これはもう医療だけではなくて、教育も含めた総体の取組をしていかなければならないということになりますから、ここは、突っ込んだ話で、保健所長としての話ではなく個人としての話になりますけれども、引き続き、様々な医学部ですとか行政だけではなく皆様で、きちんと話し合っ進めていかなければいけないところなのだと思います。

あとは、確かに準公務員制度とか開業規制とかが効果を発揮するんだろうとは思いますが、職業選択の自由ですとか、そういうところも絡んできますので、そう簡単には決まらないだろうとは思っております。

**【遠藤議長】** 久慈病院の診療科を常勤医師で満たしてほしいとか、もっと医師がいてもらわないと困るとか、住民にとって医療環境をもっと良くしてほしいということが切実な

願いです。

これから受験が厳しくなるという話もありますが、地元として、ここに力を入れていけないといけないと私も思っていました。

例えば、盛岡に生まれて住んでるお医者さんに、ぜひ来てくださいと頼むよりは、ここで生まれて育って医学部に進んだ子どもの方が、この地域に対する愛着も、また違うのではないかなと思います。お願いすることは必要ですけど、もっと地元でお医者さんになる若者を増やす。お医者さんだけではなく、歯科医師も減っていく、薬剤師さんも足りない、もうすべてが足りないという話なので、地元としても対応策を講じていかなければならないといつも思っています。

受験に勝ち抜かないと、能力がないと入れないという話は、小学校、中学校、高校含め学力の話ですけど、学力をどうするかというときに、今少子化で、小中学校の統廃合の話になって、高校も、どのように生徒を確保するのも難しくなっています。受ければみんな入るというような時代になっている中で、どのようにレベルを上げるかです。高校の生徒が少なくなると、文部省の教員の配置基準がありますので配置教員の数も減る。さらに減っていくと専門の先生を揃えられなくなり、専門ではない科目を教える先生が地方ほど出てくるというジレンマでもありますが、そこを何とかしなければならぬというのも事実です。

普代村長さん、この点についていかがですか。

**【枉屋委員】** どの点も、いろいろと大変難しいですね。村の福祉施設から現状を聞くと、そこで働いている方でも、若い方は、次へのチャレンジ、或いは、上級の専門職への意欲は少し低下してきている現状にあるということを知りました。

これは、時代の流れでしょうけれども、長い間の教育とか、或いは社会全体の流れの中で生じているのかと心配もします。特に会長さんが仰るように、医療のことは、命にかかわり非常に重要であり、足元の偏在の是正と、先々の養成を、併せて一緒にやっていくということは非常に難しいと思いますが、そこを何とかしないと、豊かさに応えていくことができないので、我々も一所懸命頑張らなければと思っております。

医師に、或いは医療関係にチャレンジをするという気持ちを持っていただくには、何か、きっかけがなければということでございますので、出前講座、或いは医療現場と一緒に医者さんたちが仕事をしているということは何遍も何遍も見せて実感、体験させるということを地道にやっていくことが大事なかなと思います。

試験のことは、会長さんが仰るように、高校の教員配置のことなど、いろいろありますけれど、オンラインでとか、いろいろ勉強の仕方もありますので、そういったものを行政なり、県内で応援して取り組んでいくのが、これからの時代は大事なかなと思っております。

**【遠藤議長】** ありがとうございます。若者の向上心が少し下がっているのでしょうか。

続いて、PTA代表の高橋委員、お願いします。

**【高橋委員】** 今のお話を聞いて、まずは帰ったら息子に勉強を頑張らせなければと思いました。親としても考えさせられましたし、資料を見て出前講座というのは、すごくいい

きっかけだと思いいました。私が中学校の頃は、こういう講座はなかったですし、このような話を聞けるのはすごくいい経験だと思います。子どもたち、今はネットだったり携帯だったり、私たちの時代と比べると、すぐ情報も分かりますし、調べることができる現代ですが、調べることができるからこそ、現実問題、薬科大学は難しいからとか、勉強は大変だからとか、諦めがちなところがあります。親としては、いざ、医者になりたいとか、薬剤師になりたいというときにスツとなれるように、中学校のころから勉強頑張っただけだと思っております。

**【遠藤議長】** ありがとうございます。ぜひ、そうしていただきたいと思っております。

この点について、最後、外館委員いかがですか。

**【外館委員】** 我が家では、子どもが県医療局から奨学金をいただき、医師になりました。学力向上はそのとおりですが、学力があっても経済的な問題で進学を諦めることもよくあるのではないかと思います。そういった意味で、我が家も非常に助かりました。もう1人の子どもは薬剤師になっており、その子も奨学金を受け、今、返しているところです。

最初にお話のありましたオープンホスピタルは、子どもが興味を持って参加し、とても感銘を受け、それをきっかけに薬剤師を目指しましたので、そういったオープンホスピタルとか出前講座の機会、進学して、もっともっと頑張れることが分かる機会がたくさんあれば、医師、薬剤師、看護師などを志す学生の皆さんが増えていくのではないかと思います。良い取組だと思います。

**【工藤企画管理課長】** 病院薬剤師の不足のお話ございましたが、岩手県の方で来年度から、県内の病院に就業した薬剤師、新卒、既卒を問わず、奨学金の返還を軽減する事業を開始する予定です。勤務先の病院とともに支援することとしているため、その病院を募集し、人数については、毎年10人程度を想定しているようです。

**【遠藤議長】** ありがとうございます。

いろいろ皆さんからのお話をお聞きしますと、そもそも医者を含む医療従事者を志望するかどうかというチャンスがないと、選択肢の中に入っていないという話があります。志望したいとなった後は、いかに学力を上げるか、そこがまた1つの関門ですが、志望しないと次の選択を頑張ろうというところが出てこない。そういう意味では体験会や出前授業が非常に大事だということですので、歯科医師も含めて、どのようにやっていくのか、これからも保健所の方で検討いただいて、あとは市町村とどう連携するかだと思います。

## ② 保健分野

資料2について事務局から説明(久慈保健所 東技術主幹兼保健課長)

《質疑・意見》

**【遠藤議長】** 普代村さんへの保健師の派遣の説明がありましたが、村長さん、いかがですか。

**【柩屋委員】** 普代村には小規模市町村の専門職支援として保健師を派遣いただいております、感謝申し上げます。私、個人的には専門職は各町村とも確保が難しくなっている中

で、県で、ある程度人材を確保し、町村でお金を支払いながら応援をいただく、そういった制度が土木職など、いろいろな職種であれば良いなと思いお願いしているわけですが、実際にスタートしてみると、当然、村のためには大きく貢献いただいております、また派遣された保健師さんも非常に勉強なるということをお県の幹部に伝えていただいているようで、大変、好循環ができており、今後も可能であれば、週に1回でも2回でも、お願いできればと思っております。

保健師の確保も順調に進んでおりまして、新年度もまた一人、村で養成した保健師が戻ってきます。大変ありがとうございます。

**【遠藤議長】** 県派遣は、もう、いらないのですか。

**【柗屋委員】** いえ、新しく入ると慣れるまで時間もかかりますので、県との連携という意味からも、あと1、2年はお願いしたいと思っております。

**【遠藤議長】** 普代村への派遣は継続ですか。

**【東保健課長】** 当初始まったときは3年間ということで、来年度までかなという気はしておりますが、正式なことは、まだ、我々も聞いておりません。

**【澤村委員】** 私たちの活動は、ここに掲げられているとおり、脳卒中死亡率ワーストワンを脱却するために、減塩食を広めるため全地域に栄養講習に入っております。令和5年度から新たな事業といたしまして、ベジメーターを活用した見える化で野菜摂取量70グラムアップ促進事業というものを岩手県全体で実施しています。久慈管内も、洋野町は令和5年度から、久慈市、野田村、普代村は令和6年度から実施し、令和7年度から久慈管内4市町村全てで行っています。令和7年度は、県内全市町村での実施となりました。

洋野町は3年間、実施していますが、やってみると、機械の中に指を入れると、数秒で分かりやすい結果が出ます。住民の皆様は、私は野菜をたくさん食べていますと言って調べるんですが、結局、野菜が足りなかったということも多々ありました。でも、見える化ですから、令和5年度実施した人たちが、いや、こういうはずではなかった、いつも野菜を多くとっているのだけど、おかしいということでリベンジして、2年目の6年度には、本当に思っていた以上に結果が上がってきました。その心がけがとても大事だと思います。3年間で、事業は終わりますが、これからも食改としては、いろいろな面に力を入れていきます。新たな事業や人材育成に保健所さんから御指導いただき、会員がどんどん増えることを願っていますので、よろしく申し上げます。

**【東保健課長】** ありがとうございます。こちらの方こそ、食改の皆様には大変普段からお世話になっております。今、委員の方からお話がありましたように、これからも我々、引き続きいろいろ形にしていきたいと思っております。お互い、できるところを協力しながら久慈地域の健康づくりに取り組んでいければと思いますので、よろしく願いいたします。

**【遠藤議長】** この地域、脳卒中の罹患率が高いことが課題になっていますので、減塩、野菜を食べて、脳卒中にならない体を作っていかなければならない、予防策ですね。

### ③ 環境・衛生分野

資料3について事務局から説明(久慈保健所 高橋技術主幹兼環境衛生課長)

《質疑・意見》

**【岡本委員】** アニサキスは魚に寄生しており、加熱すれば死ぬのですが、家庭の冷蔵庫で冷凍した場合はどうなるのでしょうか。

**【高橋環境衛生課長】** 冷凍でも死滅します。生き物ですので、冷凍か加熱で死滅すれば害はないということになります。

**【川代委員】** 献血につきましては、高校で講演いただいておりますが、高校生がお友達同士で献血にいらっしゃったという話を聞き、改めて積み重ねが大事なのだと思っております。献血目標が定められておりますので、どうぞ啓発活動を続けていただきますよう、よろしくお願いします。

水については、いつも安心な水を提供いただき、ありがとうございます。

**【高橋環境衛生課長】** 引き続き衛生向上に努めて参りたいと思います。

### (3) その他

**【遠藤議長】** 本日の議事は以上でございますけれども、次の「(3) その他」を含め御発言ある方はいらっしゃいますでしょうか。

**【川代委員】** 医療人材の育成に関して、久慈市でキャリアオーケストラをやっておられますが、今年、県立病院さんに参加していただいたと記憶しています。ですから、このキャリアオーケストラを、もう少し積極的な形で、中学校2年生を対象にしており親御さんが見学に来ることもありますので、こういう奨学金があるとか、経済的な情報などを提示できるような展示物があってもよいのではないかと感じました。

それから、医療を選んでいただくという観点で子供たちの目標、目的の1つになっていただかないといけません。今、全国的にどちらの地域も人口減少で、子どもたちに郷土愛を育むような教育に力を入れており、久慈市も、小学校の低学年から郷土愛について積み重ねていくカリキュラムを作っておりますので、どこかで医療に関して何かしらプレゼンができる可能性がないか探っていきたいと思います、高校もそうなんです。

もう1つ、先生方の負担も実際あると思うので、出前講座とか、そういうところに展示できる資料、御父兄が見ることのできる資料、もしくは図書館に行けばそういう資料が見られるとか、そういうことを工夫してもいいのかなと感じました。

**【遠藤議長】** 今、お話のありましたキャリア教育、久慈市だけではなく管内4市町村で中学校2年生全員を対象に、企業だとか施設だとかの職場を知っていただくんですが、そういう場も活用できないかというお話だと思います。

**【浅沼次長】** 我々も、いろいろまだ勉強していかなければならない部分もございましたので、今の御意見を参考にしながら、若年者向けの出前講座のような普及啓発で、様々な

奨学金の資料などございますので、検討して相談させていただければと思いますので、よろしくをお願いします。

**【遠藤議長】** 医師養成の奨学金制度があると言っても情報が届かないと、そういうものがあることさえ知らない家庭もあるかもしれませんね。情報をいかに、必要とする人に届けるかということで、キャリア教育の関係であれば、久慈市の企業立地の方で担当していますので、4市町村で協力してやります。

**【野田村 小谷地副村長】** まず資料2の、1の(1)ですが、説明でも触れられましたが、毎週水曜日、心の相談センターということで被災者の心のケアをずっとやっていただいていることに対しまして感謝を申し上げます。今後も、まだ心の切替の部分には個人差がございますので、ぜひ長い御支援をよろしくお願いいたします。

(3) 生きる支援セミナーですが、先日開催され、村長が講師としてお時間をいただきありがとうございました。村長からも、ぜひ、感謝を申し上げるようにとのことでした。

お願いの方でございますけれども、資料1の、1の(1)の関係ですが、先ほど金子副会長さんからもございましたが、早い段階で、医療を選択肢に入れるということは、かなり有効なことだと思いますので、出前講座をどんどんやっていただいて、村の学校でもお願いすることがあれば、よろしくお願いいたします。

**【浅沼次長】** ありがとうございます。

心のケアにつきましては県としても、中長期的に取り組むべき課題として、今後様々な形で市町村さんとも連携しながら、やり方とか、いろいろ御相談する場面もあるかと思いますが、引き続き、取り組んで参りたいと考えております。

生きる支援セミナーは、村長さんから、東日本大震災津波で実際こう体験されたと、非常に生々しいといいますか、皆さんの記憶に残るようなお話をいただきました。本当にありがとうございました。ぜひ引き続き、何かありましたら、よろしくお願いいたします。

最後に出前講座のお話がありました。我々としても、毎年、各学校さんの方に御案内させていただいて、何とか多くの学校さんに取り組んでいただければとお願いしておりましたので、何卒、それぞれの場面で、こういうのがあるよ、ぜひ、保健所に申し込んでくださいとお声がけいただければ助かります。よろしくお願いいたします。

**【中屋敷委員】** 久慈消防でも保健所さんの事業のメンタルヘルスネットワークの方に参加させていただいております。支援を必要とする方などに関して非常に有用な情報をいただいております、それが、久慈モデルの自殺対策にしっかりと繋がって結果が出て、本当にすばらしいなと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(林野火災警報、注意報について紹介し、啓発協力を依頼)

## 5 閉 会（浅沼次長）

【19：54 会議終了】